

レベル別による日本語学習者の 言語学習ストラテジー使用の実態

森幸穂

要旨

1980年代より、学習者中心の言語教授法が重要視されるとともに、言語学習ストラテジーの研究がさかんに行われてきた。言語学習ストラテジー使用の特徴をレベル別に見た先行研究では、上級学習者の方が初級学習者より、多くのストラテジーを使用し、さらに、学習者のレベルによって、使用するストラテジーの種類が違ってくるのが明らかになっている。しかし、これらの先行研究は、英語学習者を中心に行われており、日本語学習者を調査しているものはない。そこで、本研究では、Oxford(1990)のSILLの調査票を用い、アメリカの州立大学の日本語学習者151名を対象に、レベル別における言語学習ストラテジー使用の特徴を明らかにすることを試みた。その結果、日本語学習者は、レベルの違いに関係なく、社会的ストラテジーをもっとも多く使用し、暗記ストラテジーや心理的ストラテジーをあまり使用していないことが明らかになった。しかし、SILLの個々80項目の使用順位を見ると、レベルによって使用するストラテジーが異なることが明らかとなった。SILL80項目の使用順位をレベル別に見ると、上級者の方が初級日本語学習者より、自律学習と認識されるストラテジーを使用していることが明らかとなり、本研究より、言語学習ストラテジーは、自律学習と関係があると考えられる。

キーワード：量的研究、言語学習ストラテジー

(インディアナ大学教育学部言語教育学科博士後期2年)